
オリジナル世界に生きる

大木菜月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

オリジナル世界に生きる

【Nコード】

N8974U

【作者名】

大木菜月

【あらすじ】

宇宙帝国ザンギヤック壊滅後、「ゴカイジャーの世界」は一つの物語となった。

それから数年後のことである。

未だ存在する宇宙の闇が、新たに集結して、「新・宇宙帝国ザンギヤック」が造られた。

新・ザンギヤックは怪人たちを肉体から改造し、強化させる技術を手にし、力をつけていった。

これが、ゴカイジャーの世界である。

一方その頃、「ディケイドの世界」は、ディケイド等の活躍によって、平和が訪れていた。

破壊することが物語であったディケイド。しかしディケイドはまだ破壊していな世界が存在することを

知らなかった。その世界とは「オースの世界」である。

突然として始まる、ディケイド等御一行の旅。その世界には「人造グリード」と呼ばれる欲望の産物が存在していた。

ここまでは、ディケイドの世界である。

そして、「ウルトラマンの世界」では、ウルトラマンゼロが、新たな宇宙へと旅を始めていた。

新たな宇宙に存在する地球。そこにはウルトラマンに覚醒していない4人の人間が、ごく普通に人間として生活していた。

これが、ウルトラマンの世界である。

3つの物語は独立した存在のはずだった。

プロローグ

宇宙帝国ザンギヤック壊滅後、「ゴ カイジャーの世界」は一つの物語となった。

それから数年後のことである。

未だ存在する宇宙の闇が、新たに集結して、「新・宇宙帝国ザンギヤック」が造られた。

新・ザンギヤックは怪人たちを肉体から改造し、強化させる技術を手にし、力をつけていった。

これが、ゴ カイジャーの世界である。

一方その頃、「デイケイドの世界」は、デイケイド等の活躍によって、平和が訪れていた。

破壊することが物語であったデイケイド。しかしデイケイドはまだ破壊していな世界が存在することを

知らなかった。その世界とは「オーズの世界」である。

突然として始まる、デイケイド等御一行の旅。その世界には「人造グリード」と呼ばれる欲望の産物が存在していた。

ここまですが、デイケイドの世界である。

そして、「ウルトラマンの世界」では、ウルトラマンゼロが、新たな宇宙へと旅を始めていた。

新たな宇宙に存在する地球。そこにはウルトラマンに覚醒していない4人の人間が、ごく普通に人間として生活していた。

これが、ウルトラマンの世界である。

3つの物語は独立した存在のほずだった。

e p 1 大戦前兆 覚醒する闇

- 新・宇宙帝国ザンギャック 宇宙囚人収容所

「早く出る！早く歩け！」

鎖で両腕を縛られた、収容所の怪物たちが次々と牢屋から出され、ザンギャック艦隊へと

入っていく。中には、ゴーミンらに蹴られ倒れる者もいた。

「おい！ここどこだよ！？」

「安心しろ、貴様を強力改造してやる。また暴れたくないか？」
戦艦内にいたのは、新ザンギャックの「特攻隊長 アクダミアン」
だった。

「俺を強くしてくれるのか！？」

「ああ。だがそれには本人の了承が必要でな・・・」

「分かった！だから早く改造してくれよ！！」

「囚人番号15869番、レドラ星人フレジエギ、了承だな」

- オーズの世界では

「変身！」

一人の青年は、三枚のメダルを一枚一枚入れていく。そしてスキヤナーを通す。

奇妙な変身音と共に、仮面ライダーオーズタブコンボになった。

その向かいに立っているのは、「人造グリード」と呼ばれる、この世界の人間が造った欲望の怪物だった。

「貴様のメダル、俺がもらった！」

「渡さねえよ！」

トラクローが展開すると、オーズは人造グリード、ヘルへと走っていった。

ヘルは龍を模した姿をしており、全身にはとげとげしい鱗がついて

いる。

「おりゃあ！」

振り回したトラクローが相手の体を切り裂く。何度も本物のトラの如く切り裂いていく。

相手はオーズの左手を受け止めると、隙ができた腹部にパンチを入れる。オーズは飛ばされる。

「今日はここまでにしてやる、後は任せませ・・・」

と、ヘルが言うと、天に上る龍のように消えていった。すると突然、オーズの背後から、

一匹のヤミーがタツクルを仕掛ける。

「ぐはあっ！いつてえなあ！」

そこにいたヤミーは、先程のグリード、ヘルが造ったヤミーだった。全身の体色は黒色っぽく、体中には人間の悲観したような、醜い顔が何重にもおおわれている。

「悲観・・・ヤミーか。ヘルの造り出したヤミーは、親の欲望に對しての感情をヤミーにする・・・にしても、気持ち悪いな」

オーズはメダジャリバーを構え、向かってくる相手を切りつける。

・ウルトラの世界では

「アスカ、俺さ、ウルトラマンになる夢を見たんだよ」

「懐かしいなあ。小さい頃なりたかったなあ」

アスカとダイゴは、喫茶店で話をしていた。すると喫茶店のドアが開き、もう一人の青年が入ってきた。

「ごめんごめん。仕事が終わらなくてさ」

「なあ我夢、こいつの話し聞いてくれよ、こいつウルトラマンになる夢見たんだって」

「そうなんだよ！僕がウルトラマンになるんだ！それも僕たちが見たことのない」

我夢に向かって熱く語り始めるダイゴ。それを呆れたように笑うアスカ。

しかし、我夢の反応は少し違った。

「もしかしたら、多元宇宙論かもしれないね」

「何だよそれ？」

「話したことなかったっけ？僕たちと同じように、僕達に非常によく似た人間が、どこか他の宇宙でも生きていて、その人たちがウルトラマンになってるって事だよ」

アスカは難しい話が苦手らしく、頭をかきながら複雑そうな顔を浮かべる。

我夢の話聞いたダイゴは、真剣に考え出してすこし綻んだ。

「まあ、そんなことないよね・・・」

ダイゴがしんみりと言った一言だった。

この時はまだ、三人が光の巨人になることなど、誰一人として知ることはなかった。

e p 1 大戦前兆 交わり始める世界

・オーズの世界

「スキャニングチャージ！」

「はあ〜っ・・・せいやああああ！！！」

オーズバツシユが放たれると、相手の体とその空間を切り裂く。

ヒカンヤミーは大爆発を起こし、セルメダルが大量に飛んできた。

「よしっ。メダルメダルっ」と

しゃがみ込んで、散らばったメダルを拾い集めている途中だった。

「これがこの世界のお宝？貰っておくよ」

深く帽子をかぶり、銃型の召喚機を持った青年が、散らばったメダルを拾い始めた。

集めたメダルを懐に入れていく青年。

「おい！そのメダル返しやがれ！」

「これは僕のお宝さ、返してほしかったら・・・」

「正々堂々っつか？やってやるよ」

その青年は、腰に携えていたカードホルダーから、ピンクのカードを一枚取り出した。

「変身！」

「K A M E N R I D E デイエンド！」

三つの残像が青年を囲むように移動し、やがてそれが青年の体へとまとわれる。

青年は仮面ライダーディエンドになった。

対局する二人。妙な静寂が辺り一面を漂い始める。

「行くぜっ！しゃああああ！」

先に動き出したのは、オーズの方だった。ジャリバーを振り上げ走ってくるオーズ。

それを冷静に見つめるディエンドは、ディエンドライバーをかざし、トリガーを引く。

弾丸がオーズの体に直撃すると、オーズから火花が散る。

すると今度は、ディエンドが走りだすと、高速で背後に周り連続パンチを決める。

「ぐわあっ！」 「まだまだだね」

「ATTACK RIDE ブラスト」

青色の連弾が放たれると、もう一度オーズに奇襲を仕掛ける。

「てめえ、ふざけんよ！俺だつて」

オーズは黄色のメダルを一枚取り出し、いちばん左のバックル部に挿入した。

そしてオースキャナーで、ベルトをスキャンする。

「タカツ！トラツ！チーター！」

緑色だった脚部が、黄色に変わり足をばたつかせる。

スタートダッシュの如く、ものすごいスピードでディエンドに近づく。

トラクロを展開させて、距離を詰めてディエンドを切り裂く。

「面白くなってきたね。だけど、僕もまだまだだよ」

・ゴ カイジャーの世界

「がっはっは！この力、たまんねええええ！」

全身を発火させて、炎を大量放出し、暴れるフレジエギ。

人々は一斉に逃げ出す。中にはがれきの下敷きになるものもいた。

「久々に豪快にいくぜっ」

巨大海賊船ゴークイガレオンが、青空を遮るように現れる。

そのハッチ部分から、六人の戦士が現れる。

着地すると、六人はフレジエギを睨むようにして立つ。

「久々の戦いだ。あんまり無茶はするなよ……」

長髪の青色のジャケットをはおった青年が、隣の船長らしき人間に言う。

「こんな奴、無茶する必要もねえな」

「じゃあ、行くよお！」

「うん！」 「はい」 「いきましようっ！」

六人はそれぞれ携帯電話型の変身アイテム、モバイルーツとゴーカイセルラーを取り出す。

そして、それぞれの戦士をかたどったレンジャーキーを取り出す。

「ゴーカイチェンジー！！！」

六人の掛け声とともに、体・顔面とマスクに覆われる。瞬時に返信完了した六人。

「海賊戦隊！ゴ カイジャー！」

「貴様ら、俺の任務を邪魔しあがつて！」

「んなこと、知ったこつちゃねえ」 「行きましよう、マーベラスさん」

フレジエギに向かって走り出す栄光の六人だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8974u/>

オリジナル世界に生きる

2011年10月8日02時35分発行